

+1(プラスワン)



「負け犬の遠吠え」

牧師 横山順一

先月二十二日の衆議院議員選挙は、自民党が公示前議席とならぶ二八四議席を確保して圧勝した。公明党と合わせて憲法改正発議に必要な、定数の三分の二を与党だけで維持した。

憲法改正を支持している希望の党や維新と合わせると、実に国会議員の八割が改正に賛成している。この結果を受けて、安倍首相は来年にもこれら合議できる党のみで発議を目指す模様である。

平和憲法を守りたい立場からは、いかにも悔しい、残念な事態がやってくる。

今更ではあるが、もし野党統一候補をもっと全国展開できていたなら、少なくとも六十三議席が護憲派だったという試算がある。これほどの与党大勝は、そもそも現行の小選挙区制度がもたらしたものだ。

得票率では自民党は四十八%だったのに、議席では七十五%を占めた。更に言えば、投票しなかつ

た全有権者に占める自民党の絶対得票率は、実は小選挙区で二十五%、比例区に至っては十七%に過ぎないのだ。

これは、同党に票を投じた人は選挙区で四人に一人、比例区では六人に一人の換算である。にも関わらず、四百六十五議席の六割を占めるのだ。

どう考えても、選挙制度が間違っている。積極的に自民党を支持していないが、さりとて現状では野党に任せられないとした人は確かに多かったのだろう。

加えて言えば、「超大型で非常に強い」台風二十一号の影響もきつとあったと思われる。

でも、でもだ。告示前は安倍一強体制から来るおごりや高ぶりに不満を抱いた人は少なくなく、政権支持率は三十%台に下がっていたはずだ。

事前の世論調査でも、必ず投票に行く、とした人たちが六十%台となっていた。

が、蓋を開けてみれば五十三・六八%という、前回に次ぐ戦後二番目に低い投票率に終わった。兵庫県では、四十八・六二%、これ

は戦後最低で、基本的に都市部ほど低い。

政権交代が可能な、アメリカなどの二大政党スタイルをモデルにして小選挙区制度を導入したはずだった。

けれど少なくとも今後四年間は、この議席で政治が動く。野党には任せられないというが、任せてみたいと思えるシーンを見せられないではないか。

我が日本基督教団と同じだ。全数連記で選ぶ常議員選挙では、候補者を集中されれば、支持する側の人たちだけが当選する。

してやつたりと高笑いしている人たちがいることだろう。どうぞ、わろ天下。

何が言いたいのか。負け犬の遠吠えである。これらのごたくが繰り言だと、百も承知だ。

しかし、負け犬の遠吠え、上等じゃ！。永遠の権力など存在しない。数のごり押しでは、正義は実現しないから。

平和を求めて、何度でもプロテスト。道のりは遠いが、神の後押しが途切れることはない。ちよつと遠のいたが一休みして再開だ。